

研究課題（テーマ）		富山県における乳児を持つ母親の防災教育の課題	
研究者	所属学科等	職	氏 名
代表者	看護学部 看護学科	准教授	村田 美代子
分担者	京都橘大学看護学部	准教授	工藤 里香
	看護学部	准教授	小林 絵里子
	看護学部	教授	松井 弘美
研究結果の概要			
今回の調査では、出産を終え里帰りから自宅での育児を含めた生活が確立されつつある3～4か月の乳児を持つ母親の減災に向けた支援課題を明らかにすることであった。調査の結果から、3～4か月の乳児を持つ母親は地域の災害の想定や大規模災害への関心があり、家族と話しあうことや防災マップ・ハザードマップの確認の行動をとっているものの、避難経路の確認や生活用品・育児用品の備蓄の備えが低いことが明らかとなった。また、保健医療機関に関わる機会を通じて防災行動についての情報を得たい、乳児用の災害用品の配布などの要望を持っていた。しかしながら、妊娠中や子育て中における災害の備えについて話を聞く機会があったと回答した母親はわずかではほとんどが聞いていないと回答した。これらのことから、新たな子どもを迎え生活が変化することを踏まえた災害の備えを、具体的に行動に移せるよう妊娠中からの啓発や情報発信に向けた支援の必要性が示唆された。			
今後の展開			
現在、論文作成中であり、次年度投稿を目指す計画である。 また、協力いただいた市町村において研究成果報告後の取り組みについて調査し、妊婦や子育て中の家族に向けた災害の備えについての研究活動を継続していく。			